

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

重松尚

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院総合文化研究科

【研究題目】

反権威主義としてのファシズムと反ユダヤ主義ー リトアニア人行動主義運動 (LAS) に関する考察

【研究の目的】(400字程度)

1940年に設立された反ソヴェト抵抗組織「リトアニア人行動主義戦線」(LAF)は、反ユダヤ主義的言説を広めたことでも知られる。LAFが反ユダヤ主義に傾倒した理由として、1940年にリトアニアで起きたソヴェト化に対する復讐としてユダヤ人がスケートゴートにされたと説明されることが多い。しかし、本研究では、LAFの前身の一つ、「リトアニア人行動主義連合」(LAS)〔なお研究助成申請時は「リトアニア人行動主義運動」の訳語を用いていた〕が第二次世界大戦前から既に反ユダヤ主義を掲げていたことに着目し、先行研究が看過してきた戦間期から大戦期に至るLAS-LAFの思想的系譜を分析した。また、1930年代末期においてLASが反権威主義を掲げていたことにも着目し、権威主義に対する反発がどのような形でファシズムへの傾倒につながったのかについても考察した。これによりファシズムと権威主義がいかなる点で対立するののかも明らかにした。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究ではまず、LASの機関紙『ベンドラス・ジーギス』(*Bendras žygis*)およびその前身の「アシス」の機関紙『ジーギス』(*Žygis*)の分析を行った。そのなかでも特に「アシス」やLASがスメトナ政権の内政および外交政策をいかに批判していたか、という点に注目した。この分析結果に関しては、2017年10月末に神戸国際会議場で開かれた日本国際政治学会研究大会にて口頭発表を行った。また、これに関連して、「アシス」やLASの国家観とその後のリトアニアにおけるホロコーストの関係を考察し、米国プロヴィデンスで行われた国際会議にて口頭発表を行った(なお、この渡航に関して、航空運賃のみ別の補助金を利用した)。この成果は、今後すみやかに論文として公表したい。

その後、本研究テーマを主軸とする博士論文の全体構想を具体的に策定し、2018年2月には論文執筆の進捗状況を論文審査の審査員となる予定の3名に報告するリサーチ・コロキウムを開催した。

2018年夏にはリトアニアおよびドイツで資料調査を行った(なお、この調査に関して、航空運賃および宿泊費は別の補助金を利用した)。具体的には、リトアニア国立中央文書館(LCVA、ヴィルニウス)やリトアニア国立マルティエーナス・マジューヴィーダス図書館(LNMMB、ヴィルニウス)、ヴィータウタス・マグナス大学リトアニア人移民研究所(VDU LII)文書館(カウナス)、ドイツではドイツ外務省政治文書館(PAAA、ベルリン)、ベルリン州立図書館(SBB、ベルリン)、ドイツ国立図書館(DNB、フランクフルト・アム・マイン)にて資料調査を行った。LASに直接関係する資料に加えて、LASの後身組織であるLAFに関わる人物の個人文書やLASおよびLAFに関連する外交文書も調査し、関係資料を多く集めることができた。これについては2018年秋以降分析を進めている。今後すみやかに研究成果をまとめた上で成果を公表したい。

【結論・考察】(400字程度)

LASおよびLAFが理想としたのは、各党派の分断や対立を招く議会制民主主義ではなく、スメトナ権威主義体制のような少数者による支配でもなく、リトアニアの全党派による統一組織による体制であった。そして、スメトナ政権の政策とは対照的な「計画的行動主義」にもとづく政策を実現しようとしていた。彼ら

が掲げた「規律による統一」とは「民族の規律」にもとづくものであり、したがってユダヤ人を含む少数民族の排斥につながった。これは、両大戦間期の体制の打破を掲げていたという点で、同時代の中・東欧におけるファシズム的諸団体と類似する。

LAFに関するこれまでの研究では、LAFがリトアニアにおけるソヴェト体制の打破を目指した点のみが強調されていた。しかし、LAFは独立期のリトアニアを回復しようとしていたわけでは決してなかった。彼らが独立回復の先に目指した国家は、両大戦間期リトアニアの体制とは異なる「新リトアニア」であったのである。本研究では、1930年代末のLASが掲げた国家観にまで遡ることで、LAFに関するこれまでの先行研究とは異なる観点を提供した。